

アルカラ通り (シベールス〜グラン・ビア区間) Calle de Alcalá. Tramo Cibeles a Gran Vía

このコースはシベールス広場からスタートする。アラカラ通りを少し歩いてサン・ホセ教会まで行くと、数メートル先からマドリードの大通り(グラン・ビア)が始まる。グラン・ビアではモンテレー通りまで登り坂で、そのままカリャオまで歩き、そこから下り坂になってスペイン広場へたどりつく。すると、樹木に隠れて全体像は見にくい、1777年アルバ公爵の命で建築され、現在は軍本部となっているプエナビスタ宮殿が見えてくる。



プエナビスタ宮殿(陸軍本部) Palacio de Buenavista, Cuartel General del Ejército

グラン・ビアに行くにはシベールス広場から歩くのが一番である。同広場からアルカラ通りの右側を歩くとプエナビスタ宮殿にある陸軍本部へたどりつく。この建物は18世紀にカエターナ・デ・アルバ公爵夫人の命で建てられたものであるが、この夫人こそ、ゴヤの傑作「裸のマハ」(プラド美術館所蔵)のモデルとなった女性である。彼女は絵の完成を見ることなく亡くなってしまったその後、この宮殿の新しい主人となったのはカルロス4世治下、最初の宰相となったマヌエル・ゴドイであった。



サン・ホセ教会

Iglesia de San José

1730年にカルメリータス修道会の命により建てられた。石とレンガ造りの正面と、3つのアーチ楼と、側壁が平坦な天井を持つ。サン・ホセ教会はマドリードでも数少ない3つの柱間広間を持つ教会である。教会内には数多い絵画作品が保存されている。

サンタ・テレサ礼拝堂
教会内部の左側、キリスト像の祭壇の横にある美しい礼拝堂は賞賛に価する。

(下)
教会正面の聖母彫刻像。



グラン・ビア (アルカラ通り〜カリャオ区間) Gran Vía. Tramo Alcalá a Callao

19世紀に計画されたものの、20世紀初頭に工事が始まったグラン・ビア大通りは近代マドリードの象徴といえる。マドリード旧市街とアルグエリェスやサラマンカの新興地区との連絡路としてつくられた道路であるが、すぐに新旧のスタイルが交差する賑やかな街へと変身していった。19世紀の伝統的な様式から1900年、パリで開催された万博をきっかけにフランス建築の影響を受けた新しい様式からいろいろな建築様式が混在し、グラン・ビアはマドリードで一番長い、何かと話題の多い通りとなった。



最初の近代マドリードの登場 El primer Madrid moderno

コンクリート、ガラス、鉄構造など新しい建築材料を使った高いビルが、新しい世紀の到来に端を発したグラン・ビア大通りでの企業、商業、娯楽活動の拠点づくりに大きく貢献した。保険会社、百貨店、映画館、ホテルなどが出現し、コスモポリタンの、最初はフランスの、後にアメリカの影響を強く受けた新しいマドリードの顔が作られていった。新鋭産業の映画館、アメリカ風のカフェなどが現れ、初めてヨーロッパに目を向けた娯楽産業の波がマドリードに押し寄せてきたのだった。

電話局ビル Edificio Telefónica

20世紀の最初の30年間では、このビルはスペイン建築界にとっては全く新しいスタイルの他に類のない建造物であった。



グラン・ビア通の映画館

グラン・ビア通り (カリャオ～スペイン広場) Gran Vía. Tramo Callao a plaza de España

時の変遷と共に、マドリッドのグラン・ビアの終わりの部分で、段々とアメリカンスタイルの影響が濃くなってきたのは偶然とはいえない。豪華なブルジョワムードが漂うグラン・ビアの最初の一面も大実業家たちの手により、もっと大衆的なショッピングエリアや娯楽施設が建てられ、段々と様相が変わってきている。映画産業の発展と共に、海外から輸入された商業とサービス産業がマドリッドの新しいイメージづくりに貢献し、ネオンサインの看板とモダンな装飾をした店がにぎわうマドリッドを代表する繁華街である。

Capitol

カリャオ広場
Plaza del Callao

8つの通りが入り込むカリャオ広場は、世界で2番目に最も訪問客が多いショッピングゾーンだといわれている。



そのため、国際的に有名なデパートチェーン店が進出するには最適のエリアで、たとえば、総合百貨店「エル・コレテ・イングレス」やカルチャープロダクト販売のデパートがあり、敷地が狭い場所に建てられたフランスのFNACはその細長い建物が特徴的である。

カリャオ広場の名前は19世紀にペルーにあるカリャオ港でのスペイン艦隊とチリ、ペルー艦隊の対戦を記念したものである。カリャオ広場にはプエルタ・デル・ソルから発するプレシアードス通りとカルメン通りの2つの通りの終点がある。カリャオ広場をショッピング、散策、娯楽などがアクティブなグラン・ビア大通りが横切っている。

カピトルビル
グラン・ビアに並ぶ建物の中で一番興味深いビルである。



グラン・ビア全景 Hacia el final

グラン・ビア通りでカリャオ広場までの区間は映画館、劇場、百貨店が立ち並び、最初の区間よりもっと賑やかな繁華街であり、この区間の建物の高さの制限は35mであるのに比べて、(最初の区間の制限は25m)カリャオ広場からスペイン広場までの区間も賑やかなのは同じだが、ただ、もっと長い時間をかけて街の開発が行われているため、他の区間に比べると開発が不均一な印象を与える。ショッピングセンターやレクリエーション施設の他に、オフィスビルも並んでいる。

グラン・ビアは世界のミュージカルの主流都市の1つとなっている。各シーズンにグラン・ビアの劇場でマドリッド市民に人気のあるアーティストの公演が楽しめる。



スペイン広場 Plaza de España

グラン・ビアを降りていくとスペイン広場へたどりつく。スペイン広場がある所は昔、プラド・デ・レガニートスと呼ばれたエリアで、クアルテル・デ・サン・ヒルがあった場所である。プラド・デ・レガニートスはスペイン黄金時代の文学作品によく引用される地名であった。1919年に「スペイン広場」と刻まれた記念碑が置かれており、後にセルバンテス記念像が置かれるべき場所が決められた。ラファエル・マルティネス・サパテロが広場の設計、ロレンソ・コウリャウト・バレラ彫刻を担当し、工事は1928年～30年にかけて行われた。スペイン広場には20世紀初めから近代的な建築様式の出窓や花をモチーフとした装飾が施されているカサ・ガリャルドが残っている。1911年から1914年にかけて建築されたものだが、当時はマドリッド内でも余り知られていなかった。この家にはフェデリコ・デ・アリアス・レイのピアノが置かれている。

スペインビル
Edificio España

セルバンテス記念像の前、グラン・ビアから降りていくと、右手に1931年に火事で焼失したイエズス会のカサ・プロフェサがあった敷地に建てられた「スペインビル」が見えてくる。このビルは1947年～1953年まで、メトロポリターナ不動産会社により建築され、ラ・カステリャーナ通りに高層ビルが建つまではマドリッドで一番高い建物だった。スペインビルはレンガと石造りの建造物で、オタメンディ兄弟(1人は建築家でもう1人はエンジニア)が設計した。このビルはその高さ(12、19、26階と異なる高さのユニットの集合体)だけでなく、入り口が5つあり、その内部はホテル、アパート、オフィス、ショッピングエリアに分かれていて、エスカレーターが30台もある。

スペイン広場の反対側にはやはりオタメンディ兄弟が1957年に建築したマドリッドタワービルがある。20世紀後半に始まった高層ビルの機能性を重視するという傾向から、スペインビルより簡単なデザインが採用された。最上階には展望台カフェテリアがあり、ここからマドリッド市内やグラン・ビアの全景が鑑賞できる。



グラン・ビアから見たマドリッドタワービル



人の行き来が多いスペース
Espacio expositivo
イン広場にあるマドリッドコミュニティセンターの展示室。



セルバンテス記念碑

Monumento a Cervantes

スペイン広場の近代化の時代につくられた記念碑で、ドン・キホーテと彼の忠実な従者パサンチョの銅像がある。また、ミゲル・デ・セルバンテスの石像も置かれている。